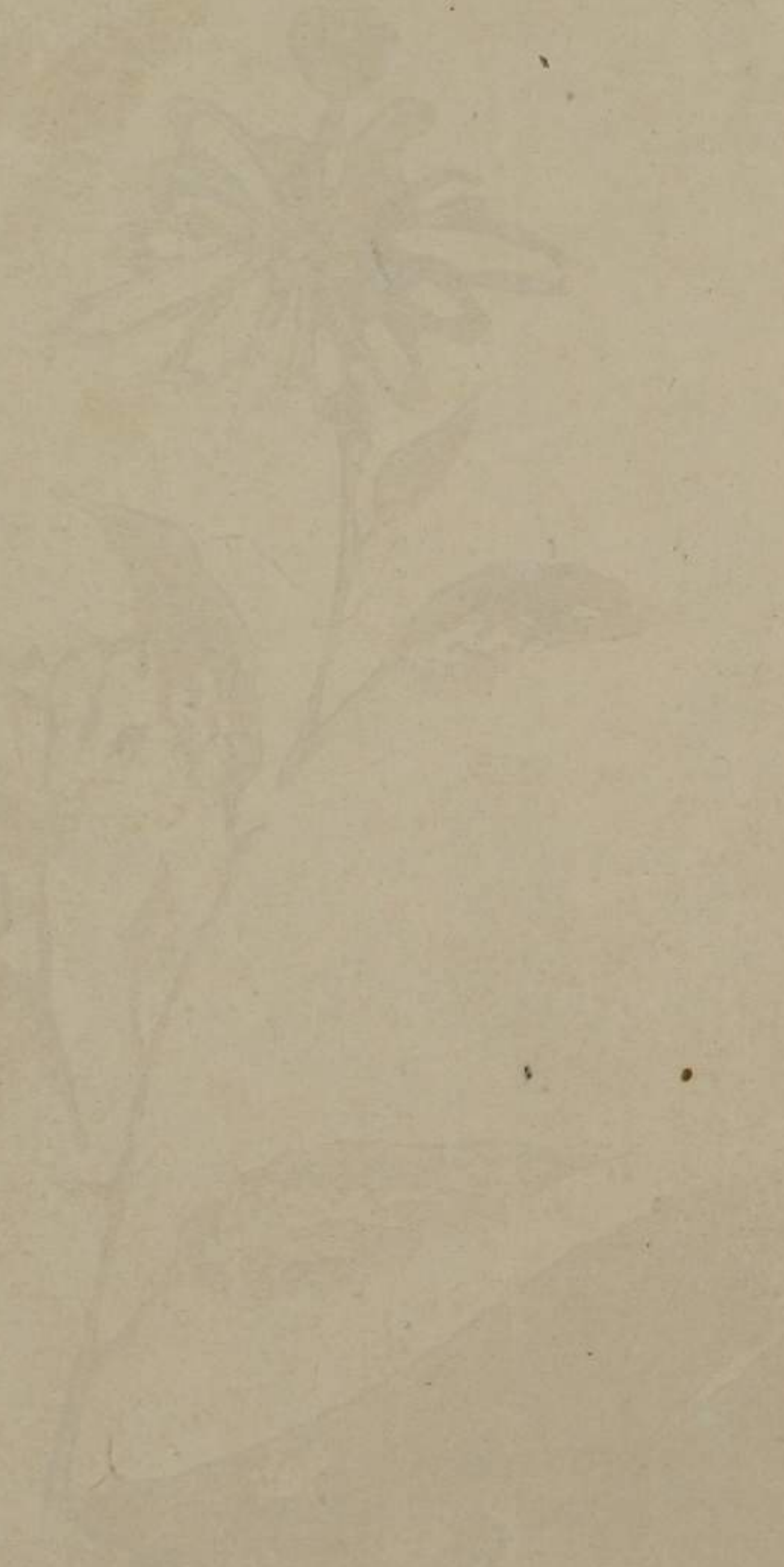




牡丹



特 別
チ12
3656
1





茶

孫乃衣ハ縁をぶくは遊りき
 福や志保るらん 是ハ明高子
 東光抄ハ阿智梨祐奉と付我子
 ナワ う祈授子持梅子ハ
 山伏僧ハ乃便るナワ 能聖子
 興礼廻國ハ皆難ハ乃習ハナワ
 志うるふ能受は習心よ立承取

あはして廻國行跡よむらん
我本山をまき出づくふり
紀乃詠才極誇乃備をさし
録乃演歌折くハ歌志何き
様衣のもろくさ進ハ様もあ
かなよ乃さ志陸奥計安達屋
美よ々々わくく
美きんやとふ

早陸奥乃安達屋よ美ては
あゝ嘆止やわけく歌てふ
あうわおはひもきともな
あまよ穴乃光おろく人あ
やとをうりやとあふ
まひ人のなみほとのあ
あはしあ
あはしあ

秋乃きくねをに風いさしめ
とも胸をやすむる事もある
まきのふもむあーせく研め
まとしろむよりおたう意定め
なのをよほやお 善 けり 善 全
内へ案内する 善 ともいふ
人う 善 けり 善 けり 善 けり 善 けり

ぬていんちみくの海邊屋小由き
昔ておをうるへ業の便もあ
福のうへに我ホをあしれ
一葉おやも成りし竹人 善 入里
とをきはせき乃松風をきく
小葉あまてしきつけたまぬ
園乃うちふはいく 善 けり 善 けり 善 けり 善 けり

もののいふまじりさぬおとく

ふれいなすまじりさぬおとく

あつたわらうをわらういふまじり

あつた女おとくあつたあつた

あつた面白きあつたあつたあつた

いとあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつちうもあうけき 海指や
人東ふまをうきなう あう海
浮世よの昔一才成昔一む家
のあ一きう さうなみのひとの
しものソや先まをたすきそ
う佛弟を飲ふたよわもあま
あう海浮世よなう へての昔

ひまのたまがなわあう海うふ
海ことのるよ叶ひあの新らん
うてもあまなも佛果おえんと
なうきう 喉は地ぬ火風結
うわふ志うもまとりれて
まおふ輪回一ふる六なり
めう海事一う心乃建ひなわ

見尸するはあまうくくんは心安く

思はまこく 手 あうう新や以

のまうて法鏡一人明はあは

あ僧も法鏡一人明 是 心の中

大正十一年 きやあうの園にうちを

物能ひまうわうくく 是 鏡の鏡魚

たちまうら 融滌一人 臭様ハ端て

照張一人 膚臆志深懐をり人乃

免發ハ数うう好とひと

法ミをきうわりのき海ハ鏡ハ

をまふきう安達屋乃忌塚

こもまはたう能寸見ハカハ

たうろ一人 やあうあうきめを

尺ちおくの安き屋乃忌塚

